

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 12 月 27 日 10:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～42,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 38,500～44,000 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～160.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～109.000

本レポートが 24 年最終号です。今年もご覧頂き誠に有難うございました。
25 年初回号は 1 月 7 日(火)を予定しております。来年もどうぞ宜しくお願い致します。良い年をお迎えください。(宮田)

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます(4 年サイクル底)。

あるいは、8 月安値から既に第(5)波の上昇が進行中かもしれません。

どちらの見方によっても、来年の日経平均は 42,426 円を上抜き、最高値を更新する可能性が高い、と思われます。第(5)波ターゲットとして[4 万 3000 円-4 万 5000 円]を想定しています。

第(5)波上昇を以て、5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の 3 年間』の完結)、以降はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

日経平均予想 EPS は 12 月 26 日時点で 2466 円。今年 10 月 5 日の 2514 円に近づいては離れる、という動きとなっています。今後の動向が引き続き注目されます。



【日足 エリオット波動分析】

(プリファード(優先)カウント)

31,156 円(8/5 安値)からの、第(4)波中 B 波によるリバウンドは、40,257 円(10/15 高値)を以て終了した、とみられます。

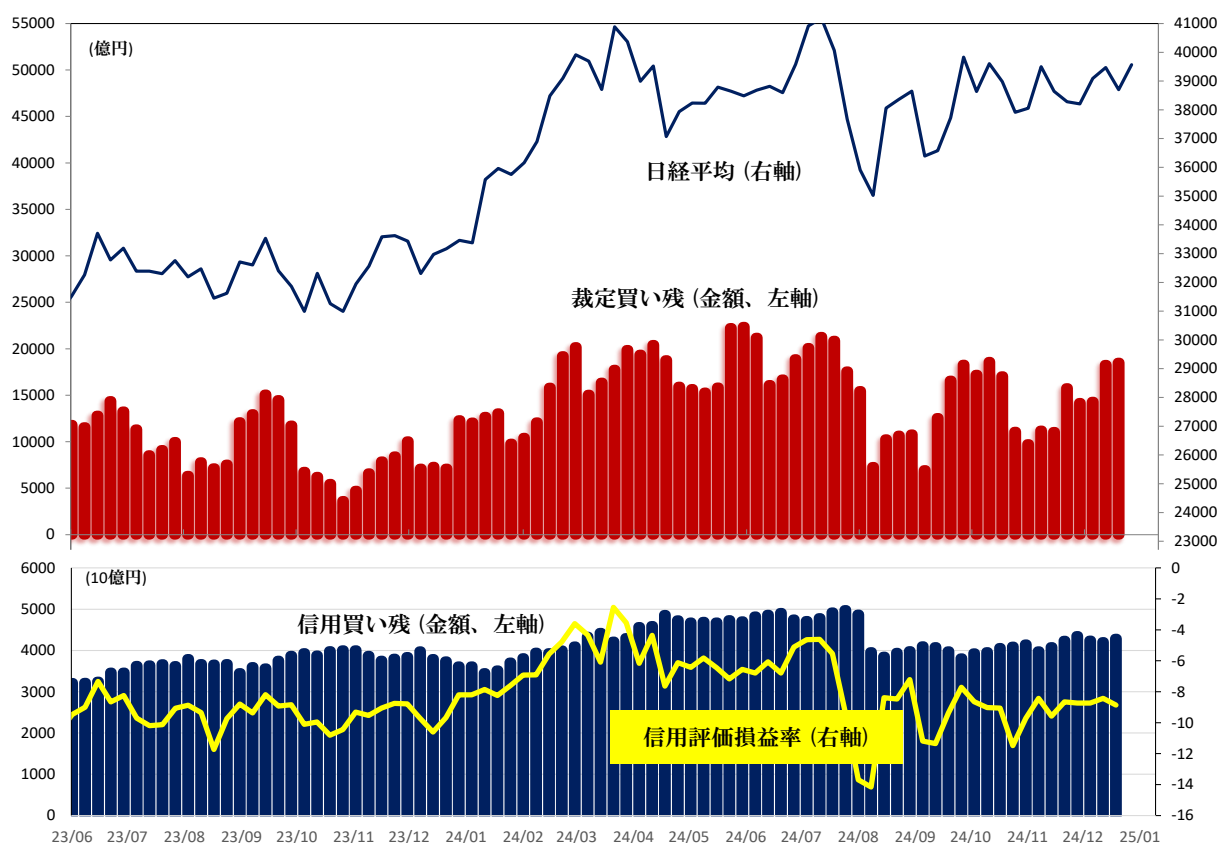
12 月 12 日の「アイランド」が暗示していたように、日経平均は短期的な下げ局面に入った、とみられます。25 年 1 月～2 月にも 35,247 円(9/9 安値)を下回る可能性があり、それを以て 24 年 8 月「一番底」に次ぐ「二番底」示現となるでしょう。

その後、数週間～数カ月間のもみ合いの間に上昇エネルギーを蓄え、日経平均は第(5)波によって、もみ合いから上放れるでしょう。

(オルタナティブ(代替)カウント)

31,156 円(8/5 安値)は第(4)波の終点底であり、そこから第(5)波による上昇が進行中です。

この見方によると日経平均は「二番底」を付けることなく、じり高基調を続けるでしょう。そんな中、25 年の前半にも高値更新がありそうです。



日本株相場の仮需給環境

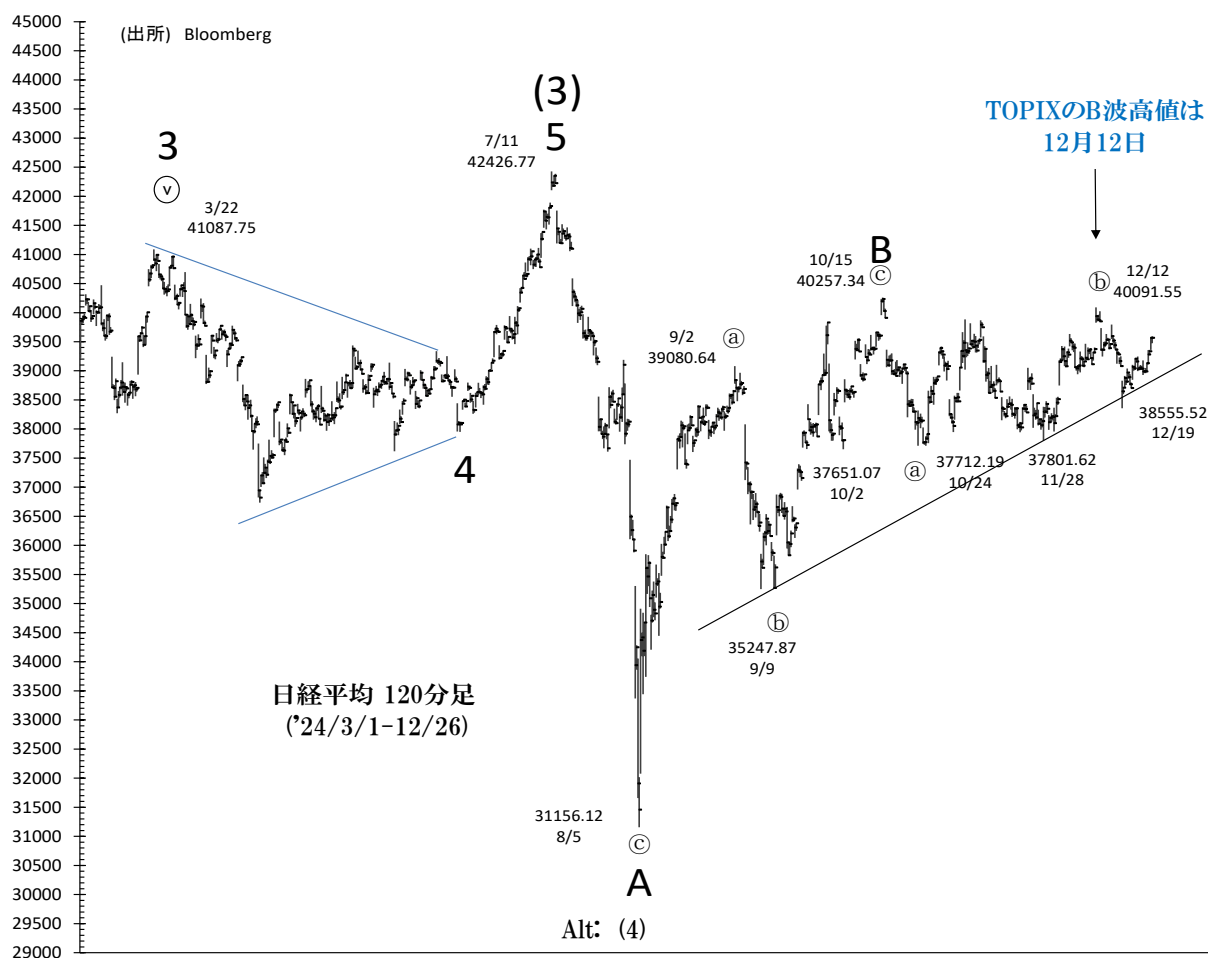
今回は日本株相場の需給環境(仮需)を確認しておきましょう。

まず足元の裁定買い残(約 2.1 兆円)は「令和のブラックマンデー」前週以来の高水準です。24 年 7 月上旬の 2.68 兆円にも近づいていることからみて、**今後は裁定買いの上積み余地が限られるとともに、裁定解消売りの圧力は強まることが予想されます。**

次に信用買い残について。

24 年 7 月末に約 5 兆円に膨らんだ買い残は、「令和のブラックマンデー」の急落により 1 兆円も急減しましたが、足元でもなお約 4.3 兆円あります。

25 年 1 月 10 日は、日経平均・TOPIX の 24 年 7 月 11 日高値から 6 カ月後、(制度)信用取引期日に当たります。**年明けの第 1 週は期日迎えの売りが膨らむ可能性が高い、とみられます。一方、1 月中旬以降は需給改善が見込めますので、日経平均の上昇機運が高まることが期待できそうです。**



【時間足 エリオット波動分析】

当面の日経平均の見通しは以下の二通りです。

[プリファード(優先)カウント] 35,247 円を下回り、「二番底」を形成

7 月高値以来の第(4)波は[トライアングル(A-B-C-D-E)]を形成中です。

31,156 円(8/5 安値)からの B 波((a)-(b)-(c))によるリバウンドは 40,257 円(10/15 高値)で終わり、そこからは C 波((a)-(b)-(c))による下げが進行中です。

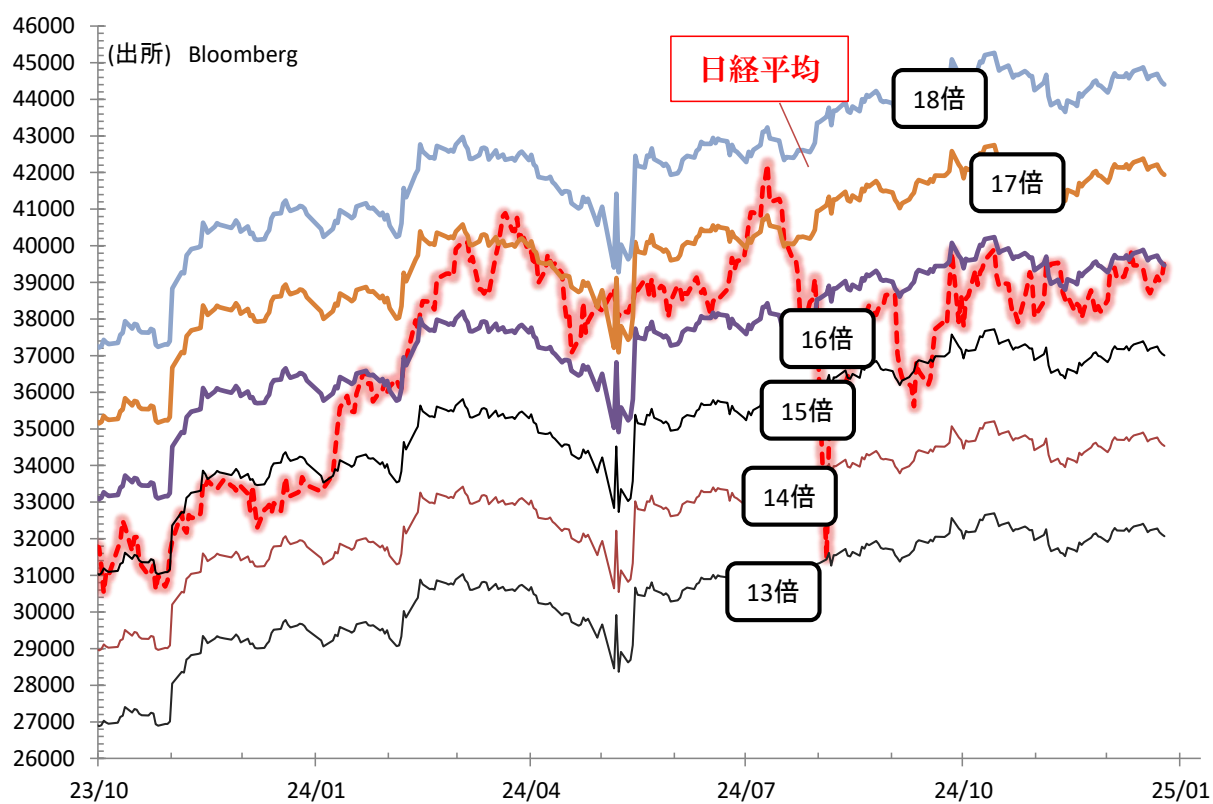
9 月と 11 月の安値同士を通るサポートライン付近から、足元リバウンドが続いています。仮に目先 4 万円回復があっても、先に書いた需給要因からは「やれやれの売り」が出やすいでしょう。

今後 38,555 円(12/19 安値)を下抜くと、C 波による下落基調が鮮明になるでしょう。最終的に C 波は 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月安値に次ぐ「二番底」を付けるでしょう。

[オルタナティブ(代替)カウント] 第(5)波は「エンディング・ダイアゴナル」

31,156 円(8/5 安値)からは第(5)波による上昇であり、そのパターンは波の重複が目立つ「エンディング・ダイアゴナル」です。今後 42,426 円(7/11 高値)を上抜くと TOPIX との弱気ダイバージェンスが解消され、強気モードが戻ってくるでしょう。

[予想 PER 別の日経平均水準]



NY ダウ



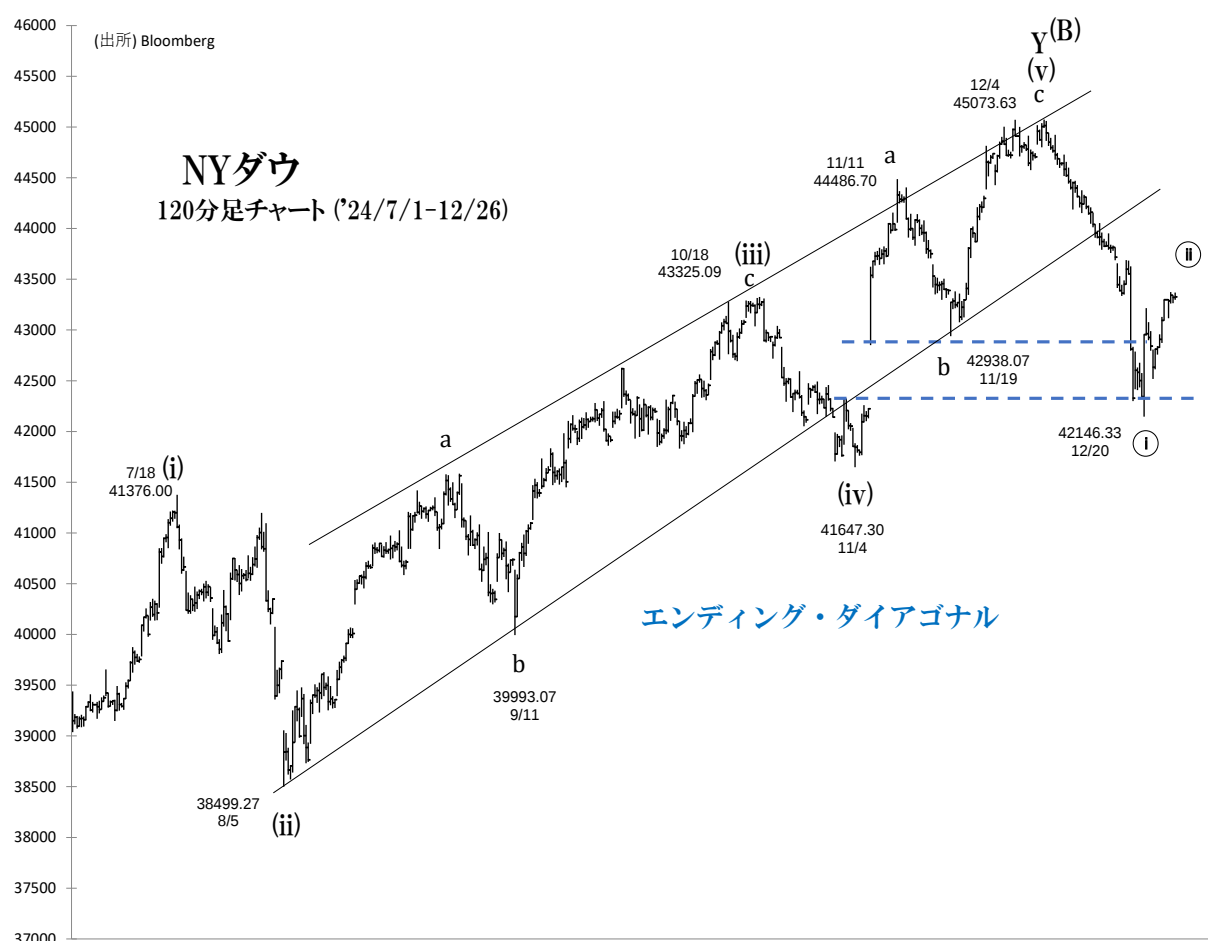
【日足 エリオット波動分析】

ダウの三指数では高値を付けた順に、輸送株(11月25日)、公共株(11月27日)、そして工業株(12月4日)です。S&P500は12月6日、ナスダック100とナスダック総合指数は12月16日に高値を付けました。

このように指数ごとの高値日にタイムラグがあるとき、相場全体は天井を付けることが珍しくありません。

NYダウは、22年10月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を45,073ドル(12/4高値)で完成した可能性が高いでしょう。今は(C)波による下落トレンドの序盤に位置付けられます。

(C)波に入っているのであれば、それは先々、22年10月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。



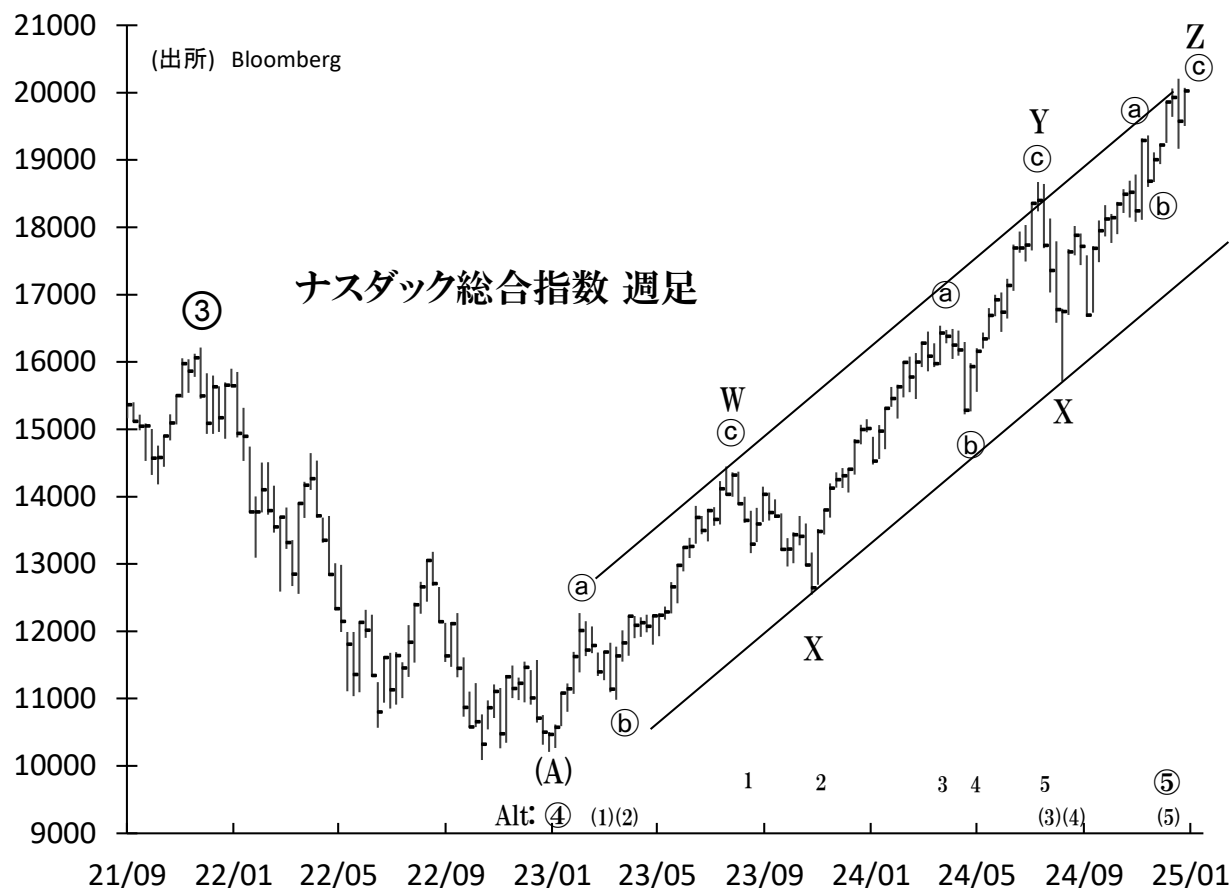
【時間足 エリオット波動分析】

米大統領選直後(11月5日～6日)のギャップ(42,258ドル～42,850ドル)は、12月20日安値(42,146ドル)によって埋め戻されました。ギャップ埋めは「トランプ・トレード」終了を証左しています。

足元はマル ii 波によるリバウンドとみていますが、12月26日高値(43,373ドル)は既に想定レンジ[43,264ドル～43,955ドル](マル i 波の38.2%～61.8%戻り)に入りました。マル ii 波は目先のにも完了しておかしくなく、次はマル iii 波による下落局面に移る可能性があります。

マル iii 波開始となれば、NYダウは41,647ドル(11/4安値)を早々に下抜き、4万ドル割れを視野に入れるでしょう。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

22 年 12 月安値(10,207)以来の上昇は、④-(B)波による上昇とカウントされます。それは[不規則天井(イレギュラー・トップ)]であり、パターンは[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]です。

プリファード(優先)カウント

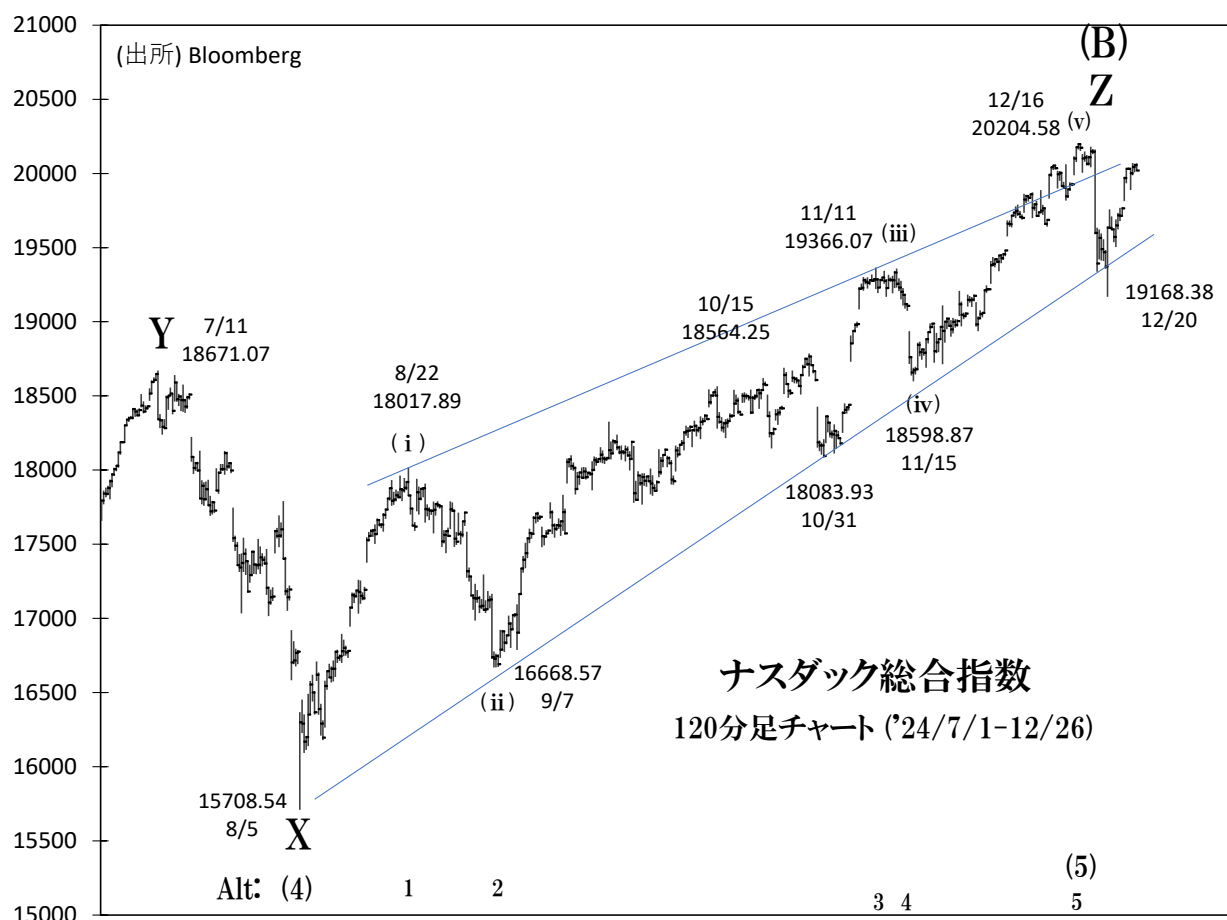
20,204(12/16 高値)を以て、④-(B)波は完成し、(C)波による下落入りの可能性を指摘できます。

(C)波は(A)波(21 年 11 月～22 年 10 月、高値から 37%調整)と同等か、それ以上のスケールの下げになるでしょう。

オルタナティブ(代替)カウント

22 年 12 月安値からの「五波動」による上昇第⑤波は終わった可能性があります。

これによれば 25 年以降ナスダックは、上記の優先カウントよりも深く長い調整局面を迎えるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

15,708(8/5 安値)からの[ダイアゴナル]による上昇パターンは、20,204(12/16 高値)を以て完成したとみられます。上昇の最終局面において、8月-11月の高値を通るレジスタンスラインを上抜きましたが、このスローオーバー(throw-over)は、ナスダックのピークアウトを暗示するものでした。

19,168(12/20 安値)からは、マル ii 波によるリバウンドとみられます。この見方通りなら、マル ii 波は20,204を上抜くことはなく、いつ次のマル iii 波による下落が始まってもおかしくありません。

25年明け早々にも、マル iii 波スタートの可能性があります。それは8月安値からのサポートライン(ダイアゴナル下辺)を明確に破ることでしょう。

一方 20,204 を上抜いた場合は、上記波動カウントを見直さなければなりません。代替カウントは追ってお知らせします。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお 24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

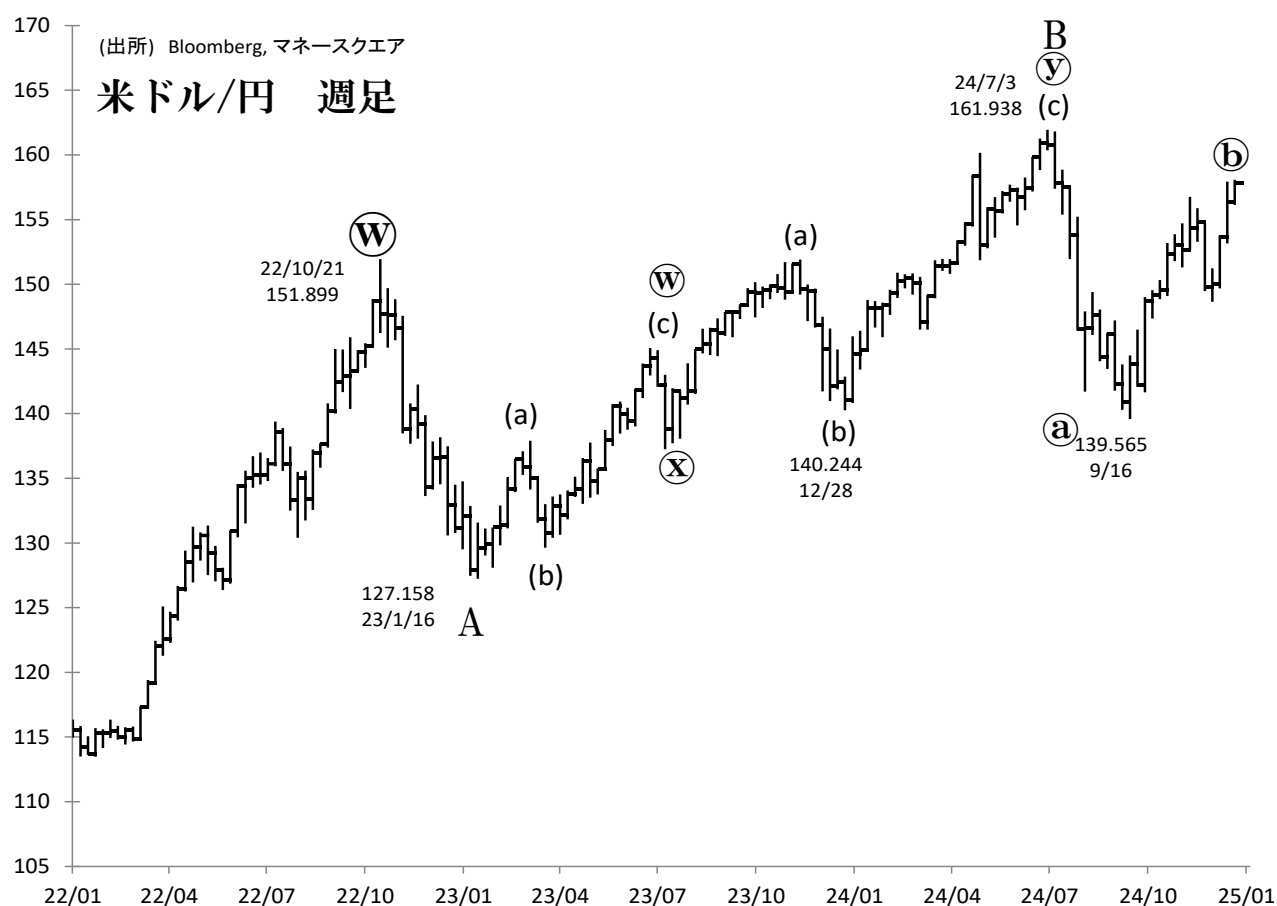
22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011 年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

25 年 1 月、①の水準は 135.655 円に位置します。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。25 年 1 月を通じ、②の水準は 116.030 円となっています。

なお足元水準は、2011 年からの上昇チャネル上限を上回っていますが、このようにドル/円が長期トレンドから上方を逸脱するのは今回 3 回目です。過去 2 回のケースでは(円買い介入によって)極端な円安はまもなく修正されており、今回も同様の動きとなるかに注目です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。この C 波は、三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)で進展していく、と思われます。

12 月 27 日にドル/円は一時 5 カ月半ぶりとなる 158 円台に乗せる場面がありました。160 円も視野に入る状況ですが、このⒷ波によりドル/円は、7 月高値(161.938 円)に次ぐ「二番天井」を付けるでしょう。

近々Ⓑ波が終了するとともに、Ⓒ波のドル安・円高が始まると予想します。

7 月高値を上抜いたときの考え方

7 月高値(161.938 円)を上抜くケースでは、「8 年サイクルの延長」の可能性が考慮されます。

8 年サイクルは、8 年±16 カ月(80 カ月～112 カ月)が本来の期間であり、今回のように 15 年 6 月から始まった 8 年サイクルは、本来は 24 年 10 月までに完結するべきものです(この点からも 24 年 7 月は 8 年サイクルに相応しいものです)。しかし 161.938 円を上抜くとイレギュラーではありますが—8 年サイクルの期間は 10 年(120 カ月)まで延長されることでしょう。つまり 8 年サイクル高値を付けるのは、25 年半ばまでのどこか、と想定されます。



【日足 エリオット波動分析】

141.630 円(8/5)より、⑥波「エキスパンデイト・フラット」が展開しています。

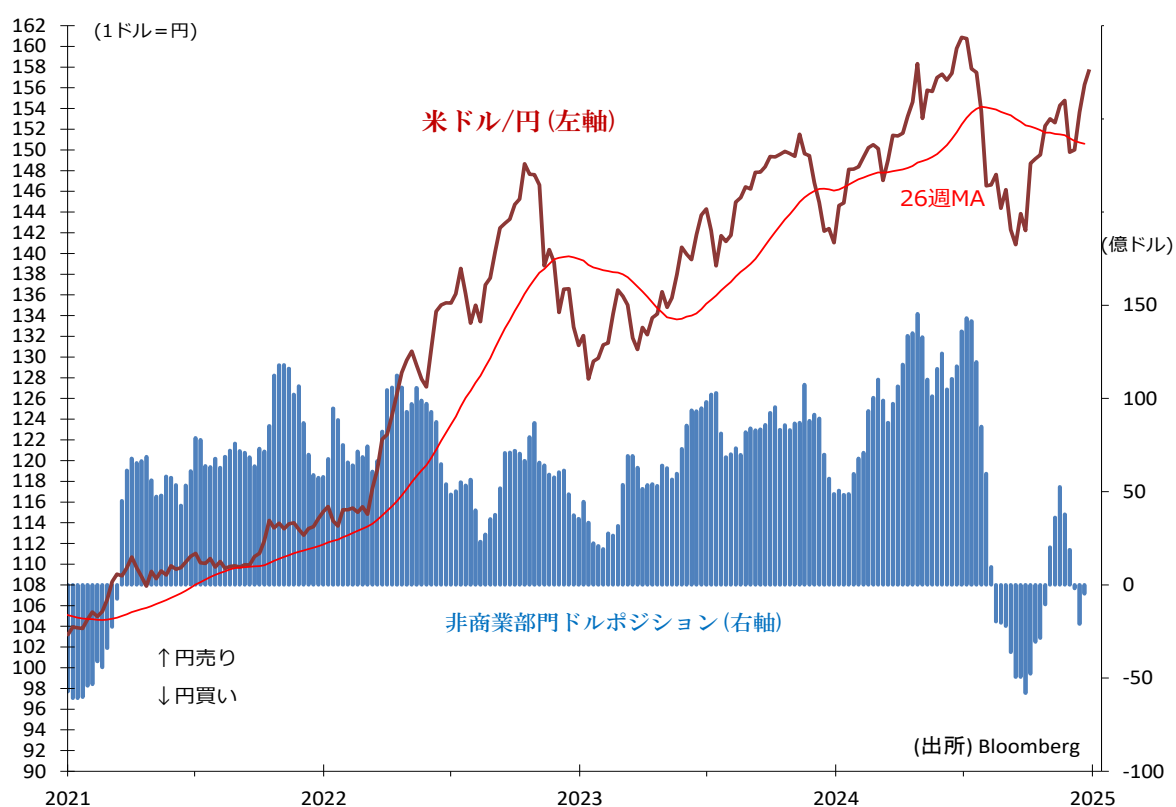
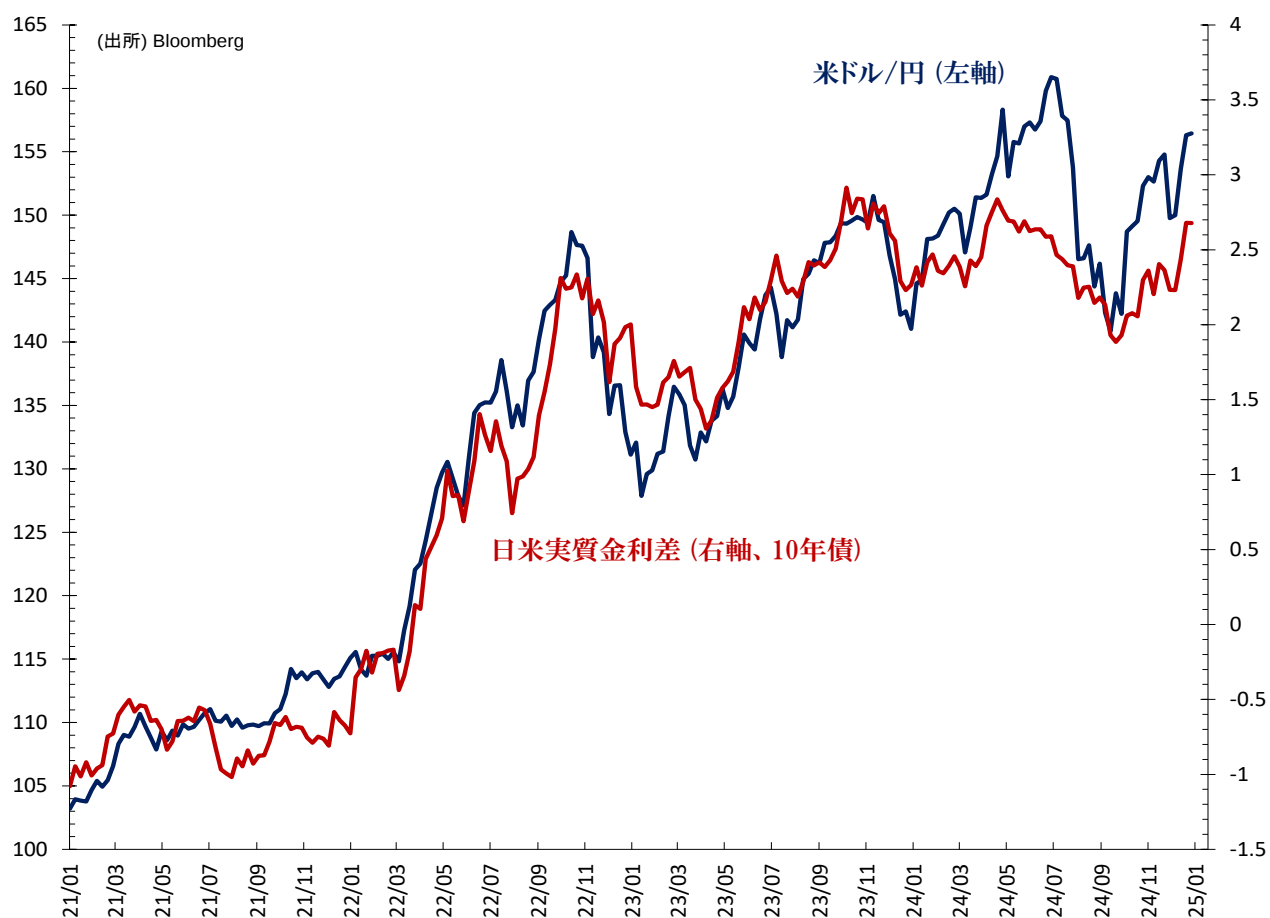
139.565 円(9/16)からの⑥波-(c)波によるリバウンドは目先のにも終了し、ドル安円高基調が再開する見込みです。25 年には 139.565 円(9/16)を大きく下抜くとみています。

金利差からのドル/円推計値

日米実質金利差からのドル/円推計値は[151.425 円]です。

投機筋の円買い持ちが縮小(12 月 17 日時点)

IMM 通貨先物市場では、投機筋(非商業部門)の円買い持ちポジションが、前週(20.95 億ドル)から 4.76 億ドルへ縮小しました。





[108.972](A波のドル安に対する 61.8%戻り水準)が強いレジスタンスになるとみられます。足元、ドル指数はレジスタンスに接近しており、ドル高はいつ終わってもおかしくないでしょう。25 年明け早々にも、トレンドが転換するかもしれません。

25 年はドル安の年になる可能性が高いでしょう。

ひとたび C 波によるドル安となれば、それは 25 年中に 23 年安値[99.578]を大きく下回るでしょう。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
